

(1) 研究主題

小中併設校の特性を生かした一貫教育の創造

～学力向上を図るための小中連携した教科指導の工夫・改善を通して～

(2) 主題設定の理由

現代の社会は、新しい知識・情報・技術が政治・経済・文化をはじめ社会のあらゆる領域での活動の基盤として飛躍的に重要性を増す、いわゆる「知識基盤社会」と言われている。こうした状況下、将来を担う子どもたちに、変化に対応していく幅広い知識と柔軟な思考力に基づく判断力を育成することが強く求められている。

中央教育審議会答申（平成20年1月17日）では、「このような社会において自己責任を果たし、他者と切磋琢磨しつつ一定の役割を果たすためには、基礎的・基本的な知識・技能の習得やそれらを活用して課題を見出し、解決するための思考力・判断力・表現力等が必要である」と示している。平成20年度改訂の学習指導要領では、これらの中で、基礎的・基本的な知識・技能と思考力・判断力・表現力等をバランスよく身に付けさせることを重視している。また、言語活動の充実や学習習慣の確立を求めていることも大きな特色である。

本校は、小学生と中学生が同じ校舎で学ぶ併設校である。小学生にとっては中学生とともに学ぶことで中学生を身近な目標とするとともに、中学生から学んだことを学習や生活に生かそうとする力を高めることができる。また、中学生にとっては小学生と接することで、思いやりの心や自己肯定感・自尊感情を高め、これまでに培ってきた知識の活用力をより高めることができる。教師にとっても、小学校入学から中学校卒業までを見通した教育活動を実践できることで、小中一貫した指導が可能となり、教師の授業改善や小・中学校が連携した教科指導が充実する。

このような社会の要請、本校の特性を踏まえ、平成23年度の研究では、算数・数学科における「活用する力」を高める学習指導の工夫・改善を行ってきた。それを受けて平成24年度は、「活用する力」を高める学習指導を各教科等に広げていき、「国語科研究班」「算数・数学科研究班」「外国語活動・英語科研究班」「道徳研究班」「学級活動研究班」の5つの教科等研究班を設け、「話し合い活動・発問の工夫・ノート指導・板書」という視点で授業を構築し、高千穂町教育研究会の授業公開を実施した。小学校と中学校の教師が連携して、合同の授業研究を推進し、共通した手立てをとって指導にあたったことで、各教科等において、思考力・判断力・表現力等を高めることができた。しかしながら、「活用する力」をより高めていくために、今後さらに学習の基礎的・基本的な内容の確実な定着を図りながら、主体的に学ぶ力を育てていく必要があることが課題として挙げた。また、問題を集中して読むこと、じっくり読んで内容を理解することなど、集中力、持続力、忍耐力について課題が見られた。その要因として、授業において児童生徒は正しい姿勢を保つことができず椅子によりかかったり、先生や友達の話を中心して聞いていなかったりするなど、日常の学習規律に因るところが大きい。これを改善するためには、姿勢指導や内面指導が必要であり、その手立てとして立腰教育に取り組むこととした。

そこで本年度の研究においては、これまでの成果や課題を生かし、各教科における学力向上を図るための小中連携した教科指導の工夫・改善を行っていく。また、学力向上を支える児童生徒の学ぶ姿勢、学ぶ意欲や集中力、持続力、忍耐力を身に付けさせるために、立腰教育を中心とした学習規律の確立に併せて取り組んでいく。

この研究を推進することにより、本校の学校教育目標である「自ら学ぶ力を身に付け、豊かな心をもって未来を拓いていく児童生徒の育成」の具現化につながると考え、本主題を設定した。

(3) 研究の概要

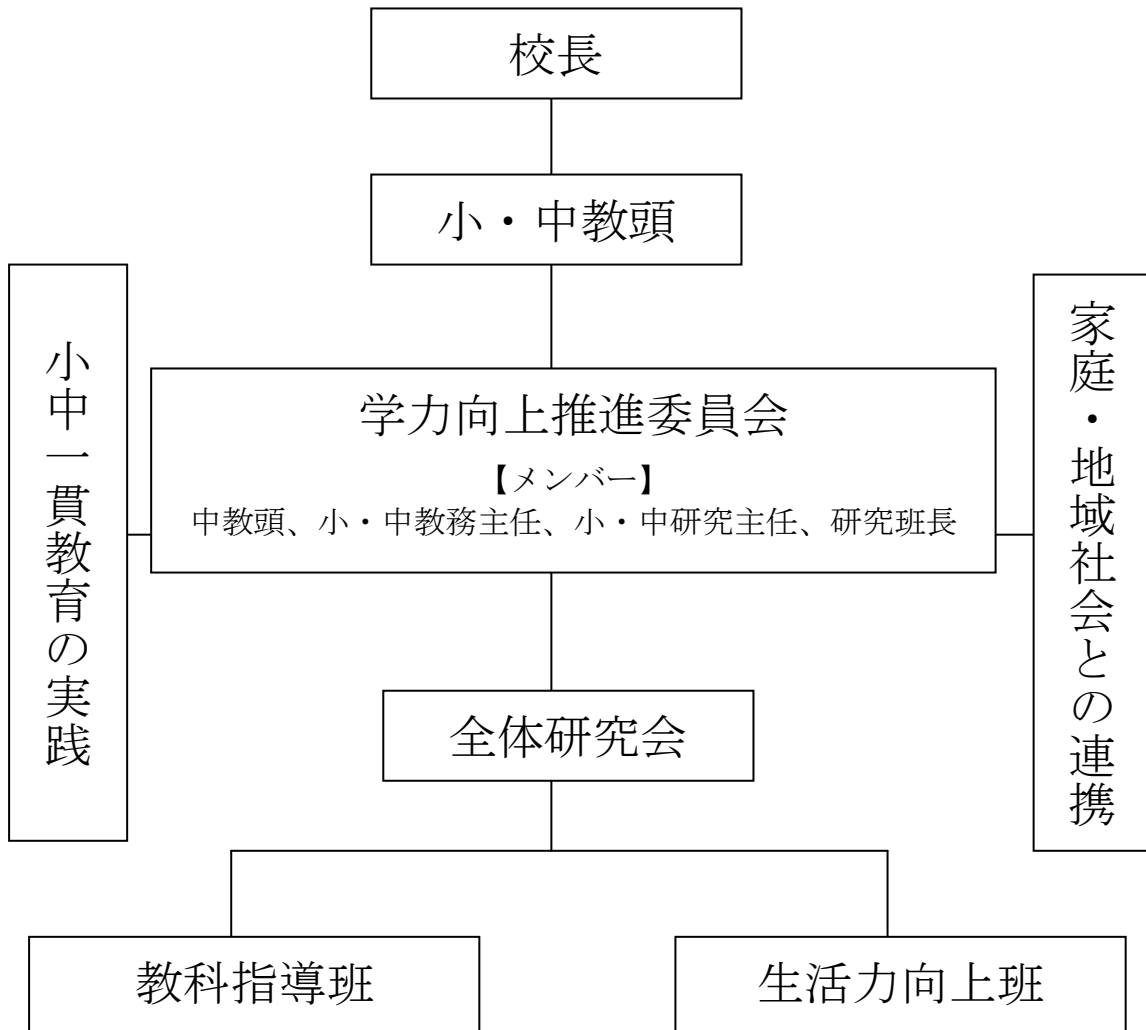
ア 研究の目標

基礎的・基本的な学習内容を習得させる教科指導とともに、それを支える学習規律の定着を図る指導の工夫・改善を通して、9年間を見通した指導方法及び小中一貫教育の在り方を究明する。

イ 研究仮説

基礎・基本を身に付けさせるための教科指導と立腰教育を中心とした学習規律の指導の工夫・改善を行えば、児童生徒の学ぶ姿勢・学ぶ意欲や集中力、持続力、忍耐力が高まり、学力向上を図ることができるであろう。

ウ 研究組織



- 学力向上推進委員会・・・研究計画、研究内容の企画、立案及び研究推進の調整を行う。
- 全体研究会・・・理論研修や研究全体の推進、研究内容の検討及び確認、研究全体の連絡調整、共通理解を行う。
- 班別研究会・・・班別に研究計画を立案し、その内容をもとに研究実践を行う。

エ 研究の全体構想図

【学校の教育目標】
自ら学ぶ力を身に付け、豊かな心をもって未来を拓いていく児童生徒の育成

【目指す児童生徒像】
○ 自ら学び、確かな学力を身に付ける児童生徒
○ 礼儀正しく、思いやりのある児童生徒
○ 心身ともに健康でたくましい児童生徒

【研究主題】
小中併設校の特性を生かした一貫教育の創造
～学力向上を図るための小中連携した教科指導の工夫・改善を通して～

【研究で目指す児童像】
自ら解決方法を考え、答えを見つけ、進んで述べ合う児童

【研究で目指す生徒像】
自ら解決方法を考え、自力で答えを見つけ、根拠に基づいて分かりやすく述べ合う生徒

【研究内容】

<p>1 教科指導班</p> <ul style="list-style-type: none">○ 基礎・基本を身に付けさせるための授業における工夫○ 児童生徒による授業評価の実施○ テストの分析・考察、個に応じた指導・支援○ 学びの時間、朝自習の工夫	<p>2 生活力向上班</p> <ul style="list-style-type: none">○ 学習規律の定着○ 読書活動の工夫<ul style="list-style-type: none">・ 合同～中学生による読み聞かせ○ 家庭・地域との連携
--	---

【研究の仮説】
基礎・基本を身に付けさせるための教科指導と立腰教育を中心とした学習規律の指導の工夫・改善を行えば、児童生徒の学ぶ姿勢・学ぶ意欲や集中力、持続力、忍耐力が高まり、学力向上を図ることができるであろう。

【研究に関わる児童生徒の実態】

○ 礼儀が身に付きつつある。	○ 行動力がある。
● 基礎学力の定着が不十分	● 集中力が続かない。

【小中併設校の特性】
(小学生) 中学生から学んだことを学習や生活に生かそうとする力を高めることができる。
(中学生) 小学生と接することでこれまでに培ってきた知識の活用力を高めることができる。
(教師) 小学校入学から中学校卒業までを見通した教育活動を実践できることで、系統的な指導が可能となり、教師の授業改善や小・中学校が連携した教科指導が充実する。